



開成宮農経済センターからのお知らせ

野菜・果樹秋肥料農薬の自己取りについて

予約注文（自己取り）をご注文されている方は、**令和4年9月5日（月）～令和4年9月15日（木） 8：40～17：00**までに取りに来てください。

※ 9月お受け渡しの「草生栽培被覆植物種子」「ネトラップ」「ラウンドアップ」「そら豆・玉葱種子」はご準備ができませんのでお電話にてご連絡をいたします。

技術顧問の日 (園芸相談)	農業の専門家が農作業の相談に応じます。※都合により不在の場合があります。
お米の日	神奈川県産の玄米を特別価格で販売します。(毎月第2・第4火曜日) ・キヌヒカリ玄米(1kg)420円→380円(税込) 9月は13日・27日となります。
棚卸の日	月末(9/30)は棚卸のため、 12時 に閉店致します。 尚、コイン精米機は17時まで営業致します。 また10月3日(月)については13時から の営業となります。 ご迷惑をお掛け致しますが、何卒よろしくお願い申し上げます。

お米の出荷はJAへ!!

～令和4年産米の出荷をお願いいたします!～

子ども達のために!学校給食用米が不足しています!

県内全体で3,500トンが必要ですが、1,800トン以上不足しています!

安定的な販売先確保のために

新型コロナウイルスにより、外食用需要が減り、他産地ではお米が余り米価にも影響が出てきています。販売先に苦労している業者もいます。しかし、神奈川県ではJAに出荷することで確実に販売され、出荷契約を結んでいけば出荷後すぐに概算金をお支払いできます。

JAに出荷し、学校給食への供給量を伸ばすことで、神奈川県産米の価格安定に繋がります!

【出荷契約された方】

出荷後、約1週間で「概算金」をお支払いします。また、契約数量に対し、95%～120%までの範囲内で出荷されたお米には500円/1袋お支払いいたします。(下限は小数点以下切捨て、上限は小数点以下切上げ)出来る限り、契約数量に対し100%以上の出荷をお願いいたします!

【出荷契約をしていない方】

春に出荷契約を結んでいない方も、「契約外米」として出荷することができます。ただし、契約米よりも支払いが遅くなります。(年度内に仮渡金として概算金の半額程度をお支払いする予定です。)

<果樹カメムシ類の発生に注意!>

農業技術センターからの予察注意報によると、予察灯によるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数は平年よりも多く推移しており、増加傾向にあります。今後、チャバネアオカメムシ成虫の多くが果樹園に飛来すると考えられるため注意が必要です。ほ場内外を見回り、カメムシ類に適用のある農薬を使用し防除を行いましょう。

(収穫期を迎えているものについては収穫前日数に注意してください。)

【キウイフルーツ】

病害虫防除 9月上旬

果実軟腐病 ロブラル水和剤 1,500倍 66g/水100ℓ 収穫前日 4回

※ スプラサイド水和剤(クワシロカイガラムシ)の散布は、収穫60日前までの為、散布時期にご注意ください。

施肥

9月中旬と10月中旬に分肥 キウイ配合 100kg/10a

後期肥大は、年間肥大の20%程度あります。

肥料の分肥は9月中旬に60%、樹勢回復には10月中旬に40%の2回に分けて行う事で効果が上がります。

【いちじく】

追肥 9月上中旬

樹勢が落ちて上部の葉が小さくなっていたら、化成肥料 20kg/10a を追肥しましょう。樹勢回復と貯蔵養分の増加が図れます。

病害虫防除 ※ 雨が続いた場合は注意が必要です。

疫病 ランマンフロアブル 2,000倍 50ml/水100ℓ 収穫前日 3回

【水 稲】

水稻の生育状況

令和4年産水稻の生育状況は、草丈は平年と同等～やや長く茎数はやや多い傾向です。出穂期は平年並みの状況です。今後の気温は高い予報となっていますので、水管理で稲への負担を軽減しましょう。

水管理

出穂後35日(収穫7日前頃)を目安に落水を行いましょ。う。(土壌条件にもよります。)

落水が早いと登熟が悪くなります。登熟不良や胴割れを防ぐために、完全落水は収穫作業に差し支えない範囲で出来るだけ遅らせましょ。う。

高温時対策

気温が高くなると品質の低下が起こりやすくなります。その対策として出穂期、登熟期の間断かん水、かけ流し、夜間入水を行いましょ。う。(特に、夜温が高い日はできる限り夜間入水して、水温を下げ、稲の呼吸による消耗を防ぎましょ。う)

収 穫

収穫適期は、穂に青籾がキヌヒカリ・はるみ・てんこもりでは15%。さとじまんでは10%残っている時期です。

平年の収穫目安 5月25日田植えの場合

キヌヒカリ・はるみ 9月14日頃 てんこもり 9月20日頃 さとじまん 9月25日頃

乾 燥

収穫した籾は、ムシを防ぐため4時間以内に乾燥機に入れましょ。う。

コンバインで収穫した籾を急激に乾燥させると胴割れし易くなるので、風乾燥を4~5時間行い水分が20%前後になってから火力乾燥(40℃を越えない)し、玄米水分含量を14.5%~15%に調整ましょ。う。

(循環式乾燥機をお持ちの方は、取扱い説明書に従い作業を行いましょ。う。)

機械の取扱い

農作業の安全と品質の確保のため、機械は使用前に取扱説明書を読み、機械の性能にあわせて無理せず作業ましょ。う。

【う め】

夏季剪定 9月中旬頃までに、縮間伐・立ち枝の間引きを実施しましょう。

樹の内部に光を入れることで、花芽分化の促進をします。また、夏季剪定の際に残す枝の葉を落とすと翌年の花芽分化に悪影響します。注意しましょう。

※灰星病発生園での剪定について

- ・結果枝（実のなる枝）に症状がある場合は、切り落とします。
- ・被害が多い場合は、側枝単位で切り落とします。
- ・樹全体に症状が広がっている場合は、健全な枝（緑枝など）を残し切り落とします。

剪定枝は発生源になるので、必ず園外廃棄しましょう。

【温州みかん】 *下線が引いてあるものは重要防除です。必ず防除を行いましょう。

この時期の病害虫防除は、収穫時の外観・品質へ大きく影響します。必ず実施しましょう。

病害虫防除 8月下旬 ~ 9月上旬

黒点病

シマンダイセン水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回

又は

ペンコゼブ水和剤 600倍 166g/水100㍓ 収穫30日前 4回

* 極早生に散布する際は、収穫日に気をつけてください。

ミカンハダニ

ダニエモンフロアブル 6,000倍 16ml/水100㍓ 収穫7日 1回

ミカンサビダニ

又は

ダブルフェースフロアブル 3,000倍 33ml/水100㍓ 収穫前日 1回

チャノキイロアザミウマ

スタークル顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100㍓ 収穫前日 3回

カメムシ類

ヤノネカイガラムシ

浮皮軽減 8月下旬 ~ 10月中旬まで

セルバイン 300倍を20~30日間隔で2~3回散布 333g/水100㍓

【中晩柑】

病害虫防除 基本防除はみかんの項参照

※ 中晩柑の防除における農薬の使用日数には十分に注意しましょう。

例) シマンダイセン水和剤 収穫90日前 12月上旬収穫のものには散布できません。

※ 強風や降雨を伴う台風の前は散布を行いましょう。

かいよう病 コサイド3000 2,000倍 50g/水100㍓ (クレフノン200倍加用)

又は ICポルドー412 50倍 2kg/水100㍓

施肥 中晩柑は秋季も窒素成分を切らさないようにしましょう。

初秋肥 9月中旬 特選みかん配合655 140kg/10a(後期肥大促進・樹勢維持のため)

* 10月下旬にもう1度施肥を行います。 特選みかん配合655 100kg/10a

【く り】

病害虫防除 9月 (収穫7日前まで)

クリシギゾウムシ アディオン乳剤 2000倍 50ml/水100㍓ 収穫14日前 5回

* 早生品種との混植園では、早生品種を収穫した後に散布を行いましょう。

収穫

自然に落果した物から速やかに採取しましょう。遅れると虫の被害が多くなります。

【湘南ゴールド】

秋口の摘果では肥大促進効果は低いので、病害虫の被害が著しい果実と極小果を中心に仕上げ摘果を行いましょう。裾枝・下垂枝の持ち上げ摘果で小玉果(3S以下)を無くしましょう。

仕上げ摘果	9月20日	3.9cm~5.4cm	このサイズを残し、 外観を中心に仕上げ摘果
	11月20日	4.8cm~6.5cm	

仕上げ摘果・枝吊り

10月以降果実の肥大は緩慢となりますので、その前に小玉果、傷果を摘果し、果実の大きさをそろえましょう。果実の重量で枝が折れたり、裂けやすくなるので、重たくなる前に、枝吊り、枝支えを必ず行いましょう。

施肥 中晩柑の項参照

【お茶】

施肥 秋肥 9月中旬

秋肥は、貯蔵養分として来年の一番茶に利用されます。光合成が活発化する10月~11月に貯蔵養分として吸収され、越冬芽の充実度に反映し、来年の収穫量を左右します。2回に分肥し、1回目と2回目の施肥の間隔は20日程度を目安とします。

1回目 8月下旬 足柄茶配合033 80kg/10a

2回目 9月中旬 足柄茶配合033 80kg/10a

病害虫防除の徹底をお願いします。

病害虫防除 8月中旬 ~ 9月上旬

チャハマキ ファルコンフロアブル 4,000倍 25ml/水100ℓ 摘採7日前 2回

チャノコカクモンハマキ

【かき】

枝つり

着色を良くするために、果実の重みで下がった枝を吊り上げて、光を入れるようにしましょう。

病害虫防除

7月上旬~10月下旬 カメムシ (夜間に飛来と加害が多いので、夕方に防除しましょう)

モスピラン顆粒水溶剤(劇) 4,000倍 25g/水100ℓ 収穫前日 3回

又は アクタラ顆粒水溶剤 2,000倍 50g/水100ℓ 収穫3日前 3回

* カメムシは山林から飛来して加害します。園の一部に加害が集中する場合があります。園内を良く見回り、加害を発見した時は防除しましょう。(早生種では、加害時期と収穫時期が重なります。収穫前日数には十分に注意しましょう。)

※農薬名に網掛けがあるものは購入時に印鑑が必要となります。

農薬を使用する際は、適用作物・希釈倍数・使用回数・使用方法等の使用基準を遵守するとともに飛散防止に努め、ラベルをよく確認し、必ずラベルに基づいて使用しましょう。